



プレス発表

平成 20 年 10 月 15 日  
独立行政法人 放射線医学総合研究所

**(独) 放射線医学総合研究所 第 11 回一般講演会を水戸市で開催  
「重粒子線がん治療と海洋環境放射能」**

独立行政法人 放射線医学総合研究所（米倉義晴理事長、以下、放医研）は、開かれた研究所を目指し、社会に役立つ活動の一環として、研究成果をご紹介する講演会を開催しております。中でも国民生活や健康に関わりが深く、関心の高いテーマについてご説明する一般講演会に最も力を注いでおり、毎回多くの方々にご聴講いただいております。今回の講演会では、「重粒子線がん治療と海洋環境放射能」と題しまして、下記の通り開催いたします。

本講演会では、放射線の医学応用として放医研が研究開発及び普及を進めており、術後の社会復帰が早いということと、難治性がんにも効果があるということで注目を集めている重粒子線がん治療と、がんの診断のみならず早期発見をも可能にする最先端技術の画像診断法について 5 名の医師が紹介・解説いたします。放医研で重粒子線がん治療を開始した平成 6 年以来、現在までに延べ 4,000 名を超える方々の治療を行っており、その優れた治療効果が認められ平成 15 年に厚生労働大臣より高度先進医療（平成 18 年より先進医療）として承認されています。

放医研では、重粒子線がん治療・診断研究以外にも放射線の影響や緊急被ばくに関する研究を行っております。その中で当所那珂湊支所では、特に海洋や海洋生物における人工放射性核種の分布と挙動の解明や、天然の放射性核種を用いて環境問題について長年研究を続けてまいりました。しかし、この度、独立行政法人整理合理化計画により、平成 22 年度をもって同支所を廃止し、本所に機能を統合することになりました。本講演会では、これまで那珂湊支所に対し多大なご支援を賜りました近隣の皆様や関係自治体・省庁の関係者の方々に感謝の意を込めて、これまでの同支所における研究成果をご紹介します。

記

日 時：2008 年 11 月 5 日（水） 13:30～17:00

会 場：常陽藝文ホール（水戸市）

参加料：無料

主 催：独立行政法人 放射線医学総合研究所

後 援：茨城県・水戸市・ひたちなか市

演 題：「海の放射能-どれだけあってどう動く?-」	日下部 正志
「重粒子線がん治療のための先端画像診断」	吉川 京燦
「重粒子線がん治療の現状」	辻井 博彦
「子宮がんへの取り組み」	加藤 真吾
「前立腺癌の重粒子線治療（これまでの実績と将来展望）」	辻 比呂志
「肺がんへの取り組み」	馬場 雅行

講演の参加申込み先・講演についての問い合わせ先

放射線医学総合研究所 企画部 広報課

TEL 043-206-4171

FAX 043-206-4062

E-mail [kouen@nirs.go.jp](mailto:kouen@nirs.go.jp)